

トマト黄化葉巻病の発生を確認！

1 発生状況

防除所が、6月中旬に実施した調査で、京都乙訓管内のトマト栽培ハウス（越冬型長期栽培）の1棟でトマト黄化葉巻病の発生が疑われる株が認められた。京都府農業総合研究所環境部がPCR法（遺伝子診断技術）により検定した結果、トマト黄化葉巻病と診断された。

今後、タバココナジラミ類が急速に増加する時期となるので、発生に十分注意する。

なお、今年6月に実施した府内のコナジラミ類の発生状況調査の結果、亀岡市以南でタバココナジラミ類の発生が確認された。

2 防除の基本

トマト黄化葉巻病の発生・拡大を防ぐためには、「トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCCV）の伝染環を絶つ」ことが重要である。そのためには、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

- （1）施設内にウイルス・コナジラミを入れない。**
- （2）施設内・施設周辺のコナジラミを増やさない。**
- （3）施設内からウイルス・コナジラミを施設外に出さない。**

3 防除対策

- （1）感染株の抜き取り処分を徹底する。**
- （2）薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤（でんぷん液剤などの物理的防除剤）や糸状菌製剤をタバココナジラミ類に散布する。**
- （3）その他の防除対策は、発生予察特殊報など以前に発行した技術資料を参考にする。**

4 基礎知識

- （1）**トマト黄化葉巻病は、25℃の条件では発病までに3週間程度かかる。冬の気温が低い時期には、ウイルスに感染してから発病するまでに1～2ヶ月以上かかる場合もある。
- （2）**ウイルス感染が暑い時期（8～9月）に起きた場合は10～11月に発病するが、それより遅い時期に感染すると冬の低温のために発病が遅れ、再び温度が高くなる3月頃に発病することもある。
- （3）**病原ウイルスのTYLCCVは、トマト以外にもトルコギキョウなどいくつかの植物に感染するが、ウイルス源となることが確認されたのはトマトだけである。
従って、ウイルス感染トマトで吸汁したタバココナジラミが保毒虫となり、別のトマトにウイルスを媒介する可能性が高い。